

# 遠隔授業を使って ゼミ形式の授業に挑戦する

長野県看護大学  
宮越幸代

高等教育コンソーシアム信州  
第3回FDフォーラムパネルディスカッション  
2011年1月22日(土)



## 2010年度遠隔授業「国際看護学」のねらい

(前期毎週金曜日第Ⅱ限計15回(2単位)を配償  
本学では学部3年次の選択科目で、4年次の「国際看護実習」の先修要件

1. 国際看護の実践に必要な基礎的知識を学び、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた看護の実践方法を考える
2. 国際看護における具体的な状況判断が必要な事例を検討し、既習の知識や技術、これまでの経験をもとに、国際看護の実践について説明できる
3. 国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた看護の経験を活かす可能性を考える

- ・ 国際保健医療に関する基本的な知識を確認しながら、国際保健医療における看護の役割および具体的な実践方法など、豊富な事例を元に、解説・意見交換(ゼミ形式)できる授業とする
- ・ 学生のレポート(発言も)や評価においては、授業で学んだことを元に、自分の考えを根拠と共に説明できることを期待する

## めざしたのは

国際保健医療に関する基礎的な知識・技術に加え、幅広い視野で対象をとらえ、国際看護が実践できる基本的な力をつけること

### 背景:

2008年改正看護基礎教育カリキュラムにおいて「看護の統合と実践」が新設  
内容: 国際的な広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力ができるような看護師を養成することが求められるようになった



遠隔授業は「国際看護学」のこの究極的な目標を効果的に果たすことができるか?!

## 「国際看護学」の授業概要

日	日	授業内容	備考	履修	
				本学	他大学
1	4月14日(金)	履修生自己紹介・オリエンテーション		1	
2	4月22日(金)	「国際看護学をめぐる意味」に関する講義・意見交換			
3	5月7日(金)	★「国際看護実習」に関する説明と実習の意義に関する講義	小論文が履修授業の1点本学履修生のみ受講となり、授業内容の予定変更		2
4	5月14日(金)	「国際看護で学ぶこと」と「国際看護の場と対象」に関する講義・意見交換			
5	5月21日(金)	「国際看護の歴史」に関する講義		1	
6	5月28日(金)	「日本と海外の看護や看護教育の違い」に関する講義・意見交換		2	
7	6月4日(金)	「国際看護学をめぐる学習環境」「国際保健医療」に関する講義	入学者が履修授業となり、本学履修生の受講→入学者は信州大学履修生を指示		2
8	6月11日(金)	「国際看護に際する機関と看護における連携」に関する講義	履修アンケート実施(中間評価)	1	
9	6月18日(金)	「国際能力の原質」に関する講義と「国際看護が求められる場面」に関する意見交換		2	
10	6月25日(金)	「国際看護学がめざすもの原質」に関する講義		2	
11	7月2日(金)	中間試験	授業者は入学者に最終試験科目と授業の進捗を知らせる(履修生は看護大学では大学の生の1人1人行)		
12	7月9日(金)	「国際看護学の実践」に関する体験談(1) (専攻海外協力部「看護部」職員08)			
13	7月16日(金)	「ファミリー・ヘルス・ケアにおける看護の役割」と「レシピアム開発目標」に関する講義		2	2
14	7月23日(金)	「国際看護学の実践」に関する体験談(2) (専攻海外協力部「看護部」職員09)			
15	7月30日(金)	「国際看護学の実践」に関する体験談(3) (専攻海外協力部「看護部」職員10)		1	
16	7月30日(金)	履修のまとめ・最終試験	履修アンケート記入(最終評価)		
17	8月6日(金)	★「国際看護学」を学んだ感想や履修に関する履修生自身の意見交換	履修生に履修不可能な学生(履修活動から大学の復帰済み)が出たため予定変更	3	1



授業担当者用○画面投影モニター



授業中の一場面

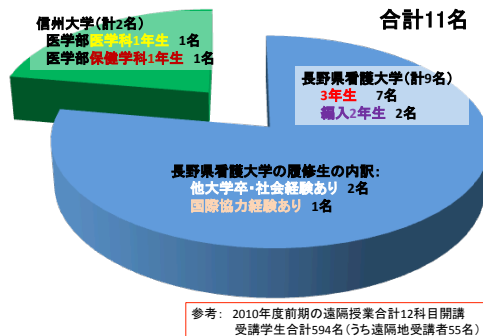
履修生: 11名

本日の報告資料: 履修生が記述・提出した授業アンケート(中間評価および最終評価)のうち、遠隔授業の有効性と運用上の課題に関する内容を抜粋

アンケート調査や写真・画像の公開に対する倫理的配慮:

- ・ 事前に長野県看護大学倫理委員会での審査承認
- ・ 調査主旨及び倫理的配慮について文書と口頭で説明後、履修生各自の直筆署名による同意を確認

## 履修生およびその背景



## 遠隔授業独特の内容・課題 困ったこと・難しさ 1

モニターを通じての声かけや意見交換のときのタイミング・空気の読み方

システム上、発生する微妙な時差や音声を推察・考慮したやりとりが必要であることが予測できていなかったため、慣れるまでは難しかった。

その他:

システムの不具合  
不具合やシステムを使わねばならないことの面倒さから学生の遠隔授業に対する抵抗 など

## 参考資料(中間評価アンケート結果)

### 授業に対する自由意見・感想

肯定的意見

・他大学の学生の意見が聞けて勉強になる。特に自分と異なる学年の意見にすごく感心することがあり、自分と同じ学年になった時の考えに興味がわく  
・先生方がシステムに慣れて意見交換が多くなってきたので、楽しくなってきた

指摘

・機械の不具合が多い。システムが順調でなかったり、整っていないので、やりにくい授業  
・画期的であるが、多額の設備投資をした分、受講生を増やすべき  
・カメラ操作や不具合の待機などの人材が必要な点では、コストの割に無駄が多い  
・ネット環境のあるところでeChesでレポートを提出しなければならないのが負担。  
・自分のPCと配信されている資料のVer.が異なって聞けないうちは不便だった  
・ビデオ録画されていることが教員と学生の自由を奪い、教員の良さも生かされていない  
・知識の後に意見交換を入れるのであれば、2時間続きの授業の方が効果的

混合意見

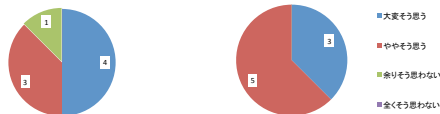
・マイクで話さねばならないのは緊張するが、よい意見交換・交流の機会(複数意見)  
・最初のころはシステムの使い方がかかり時間がロスを感じたが、他大学との交流など可能性が広がること分かったので、これからも大いに活用してほしい  
・他大学と意見交換できたり、学内にない科目を履修できるのはよいが、システムを使わねばならないことには不便を感じる(複数意見)

## 参考資料(最終評価アンケート結果)

### 設問. 画像・音声

無記名式: アンケート回収数=9 うち有効回答数8

- 1) 遠隔授業全体を通して提示された画面の大きさや明るさ、鮮明さ、シーンは適切だった
- 2) 遠隔授業全体を通して、講師や学生が話す声の音量は適切だった



意見

・受信側との音声のずれ(ターン・テイキング)に慣れるまで、意思疎通が難しかった  
例: 受信側の返事を待たずして次の質問や声かけをしまい、音声がかぶる  
・受信側としては、画像の乱れが時々あり見づらいこともあったが、大体問題ない  
・細かい写真などは配信には向かないと思う  
・マイクを使っていたので、音声としては問題なし。ただ、時々配信側の学生マイクのスイッチが入っておらず、A大の履修生には一部の意見が聞こえないことがあった

回	日程	システムで発生した問題
1	4月16日(金)	配信側のシステム操作ボードがキー操作と連動しない
2	4月23日(金)	2-3分間の通信切断あり(原因不明)
3	5月7日(金)	
4	5月14日(金)	配信側の導入時のログイン操作の誤りで、最初の数分間A大に配信されない
5	5月21日(金)	
6	5月28日(金)	マイクの音声が入らない(電池切れ2回と原因不明1回)
7	6月4日(金)	
8	6月11日(金)	
9	6月18日(金)	
10	6月25日(金)	
11	7月2日(金)	配信側の導入時のディスプレイ選択ミスにより、最初の数分間A大に配信されない
12	7月16日(金)	ネットワークのシステムトラブルで大学履修生が履修できず → A大履修生には後日のビデオ履修を促す
13	7月23日(金)	配信側の導入時のディスプレイ選択ミスにより、最初の数分間A大に配信されない
14	7月30日(金)	授業実施者のパワーポイント操作がキー操作と連動しない
15	8月6日(金)	A大履修生が本学に来学したため、システムを使用せず

実際の不具合は、予想していたより少なかった

## 遠隔授業独特の内容・課題 困ったこと・難しさ 2

時間割の振り替え制度や、休暇に入るタイミングの違いなどで、他大学の履修生がリアルタイムで受講できないときは、やむを得ず後日のビデオ履修させたり、内容変更をした

= 双方の時間割の都合・未調整によって遠隔授業の醍醐味ともいえる意見交換ができない  
\* 学部や学年を超えて意見交換したいテーマがあるときに限って履修できない・というのは残念(レポート提出や次の時間に改めて全員にフォロー)

## 遠隔授業独特の内容・課題

### 工夫したこと

- 異なる学年や学部生の異なった視点での意見を聞く目を見張る意見に、身を乗り出す者も続出!?  
⇒履修生が、特に意見交換に関心を寄せていることがわかってからは、知識提供を少なくし、なるべく発言・意見交換の時間を多くした

### うまくいったこと

- 信大学生の質とモチベーションが高く、本学学生を刺激  
⇒マイクを向けると必ず自分の意見を言う、集中して聴く  
・指名制にするとモニターを超えて履修生同士が指名しあひ、自分以外の意見を自分たちで活発に掘り起こす

## 参考資料(中間評価アンケート結果)

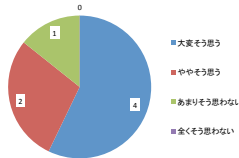
設問. 「国際看護学」を引き続き学びたいと思うか

記名式: アンケート回収数=11うち有効回答数7  
無効回答4名. 所定の書式以外での提出・自由記入欄の意見のみ採用

### 大変そう思う(4名)

理由:

- ・ 少数での他大学との授業により、**様々な意見交換ができる**(複数意見)
- ・ 分からないことが**その場で質問でき、自分のペースにあった学習**ができる(信州大学)



### ややそう思う(2名)

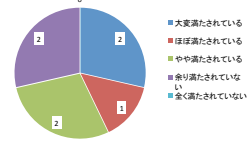
### 余りそう思わない(1名)

設問. 授業に期待したことはどの程度満たされているか

### 大変満たされている(2名)

理由:

- ・ 意見交換が増えてきて、他大学とも**互いに発言できる場が多くなってきた**から



### ほほ満たされている(1名)

理由:

- ・ 信大との意見交換によって**多様な意見を聞くことができ、他の講義ではできない貴重な経験**となっている

### やや満たされている(2名)

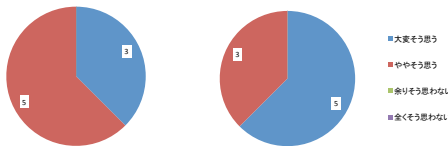
### 余り満たされていない(2名)

## 参考資料(最終評価アンケート結果)

設問2. 意見交換の方法やタイミング・テーマ

無記名式: アンケート回収数=9 うち有効回答数8

- 1) 学生の意見交換の方法やタイミング、**テーマは適切だった**
- 2) 遠隔授業で提示される**ビデオ画像の提示方法やタイミング、回数、時間は適切だった**



意見

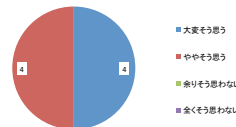
- ・ 指名されたり、マイクを使って話すのは**緊張したが、自分の意見が言えたのはよかった**
- ・ 立場の違う者同士の**意見交換は、考え方や視野が広がりました**
- ・ 提示された画像が**明瞭でない**と意見交換しにくいこともあった(暗い、流れるなど)

## 参考資料(最終評価アンケート結果)

設問. 授業への満足度

無記名式: アンケート回収数=9 うち有効回答数8

この授業の履修を決めた時に自分がこの授業に**期待したことは、十分満たされた**



意見

- ・ 有意義な時間が過ごせた
- ・ **意見交換の時間がもう少しあるとよかった**
- ・ **考え方が広がった。色々な体験談や実際の画像で海外の事情を学べた**
- ・ **もっと学びたい**
- ・ 今まで日本の看護についてしかほとんど考えていなかったけれど、受講して**世界の看護について関心がわいた**(日本とは異なる看護の根拠がある点など)
- ・ できれば**2時間続きの授業の方が内容が深まった**と思う

## 参考資料(最終評価アンケート結果)

設問. 自由意見・感想(抜粋)

肯定的意見

- ・ 海外での支援に関心を持った、**先進国の医療事情**についても学んでみたい
- ・ 他の先進国の**途上国への関わり**も知ってみたい
- ・ A大学にはない**自分の学びたいこと(科目)が学べてよかった**
- ・ 他大学との学習は**とても有意義で色々な意見を聞けたり、視点も広がる**
- ・ **面白い授業だった**。いつも笑顔で元気をもらった
- ・ **実際に体験したことの話**が聞けたのはよかった

指摘・要望

- ・ **システムのトラブルで授業の開始が遅れてしまう**のは残念なので、改善してほしい
- ・ **すごく満足しているが、システムが現実だとおよい**
- ・ 授業当日に配布される資料は、A大学の履修生の場合、後日受け取るようになった
- ・ 授業当日に**閲覧される資料も、A大学では後日、教員が手渡すことになった**
- ・ **医学生等と共に学べる授業を希望**。単科大学なので**他職種との連携を学びたい**
- ・ 遠隔授業で学べる**科目をもっと増やしてほしい**
- ・ (教員がA大学から配信したり、A大学の学生が本学に来てくれたように)自分たちもA大学に行ってみたかった!
- ・ 履修したくても**大学間で受講時間を共通に設定するには限界がある**と思う

## 考察 1

**意見交換を取り入れたゼミ形式の遠隔授業は履修生の期待に応え、国際看護の学習目標をかえ履修生間で行う意見交換や海外の看護などの実際場面の写真や動画**

→ さらにそれらが「本授業に期待したことが**満たされている**」と回答した**主な理由**となっていた

「国際看護学」の授業では、今後も**遠隔システムを用いた意見交換や実際の画像を取り入れることが履修生の期待に応える授業**となりうる。特に他大学の異なる**年次の履修生との意見交換は、双方の履修生にとって「視野が広がる」という学内の授業では得られない効果**をもたらす  
= **国際看護に必要な世界の幅広い対象や事象への理解**にもつながる

## 考察 2

「国際看護学」をゼミ形式で効果的に行うための課題

基礎知識の統合・応用力だけでなく「国際保健医療」や「国際社会のシステム」など、学ばべき多くの関連知識がある



キャンパスを超えた学生間の意見交換の意義も効果も大きいことが分かったが、履修生数は十分とはいえない

幅広い知識や課題の一方向的な提供の身に留まらせないために

- ◆ 国際看護に関連する知識を精選し、学習内容を整理する
  - ◆ 時間内に目標に到達できる効果的な意見交換方法を検討する
- 統合・応用力が求められる国際看護を学ばせるために
- ◆ 授業のねらいや学生の準備性の点からも効果的な学習を妨げない履修要件を検討し、効果的な履修ができるよう考慮する
  - ◆ 学科や距離を超えて履修できるというメリットを活かすために
  - ◆ ガイダンスの方法や時期の工夫、履修希望者が履修したい科目を選択できるための時間調整を行い、履修生を確保する

## 考察3

特に授業実施者によるシステムの円滑な運用は不可欠

・(中間評価)システムの不備やシステム利用に対する授業担当者と学生の不慣れが『本授業に期待したことが「余り満たされていない」と理由となっていた。』

通常授業とは異なる緊張感への抵抗やシステムやネットを使わねばならない煩わしさ  
→遠隔授業に否定的になる履修生



授業担当者がシステムに慣れて意見交換が多く取り入れられるという変化を察知  
→遠隔授業の面白さを感じようになる履修生

今回は授業実施者や学生が遠隔システムに慣れる導入の機会  
今後システムの安定化やシステムへの慣れによって、遠隔授業をよりスムーズに運用し、遠隔授業という方法への抵抗をなくし履修生が学びやすい条件を整備することが効果を握る鍵になる

## 考察 4

その他:運用上の課題

- ・大学の都合により履修できない場合の対応  
授業録画ビデオの視聴で対応が可能であるが、常に履修が可能であるため、復習や学習の補完という意味以外の目的で利用される可能性も想定し、録画ビデオ利用の原則を検討する必要あり
- ・配布資料を準備する上での配慮  
前日までに教務・事務局に配送するなど、信大の履修生に不利益がないようにしたが、学生が印刷可能な期限までにeChe上にアップする原則を守る
- ・その他:授業実施者が信大に赴き、履修生の意見を聞く、実物教材や資料を示す等、配信側と受信側の履修生間の格差や不都合を避ける必要があった

## まとめ

遠隔授業「国際看護学」の究極の目標

国際保健医療に関する知識・技術に加え、  
幅広い視野で対象をとらえ、国際看護が実践できる  
基本的な力をつける

「国際看護学」を遠隔授業のゼミ形式で行う方法は「国際看護学」の究極的な学習目標を効果的に果たす！

一方、意見交換の効果的な進行や円滑な授業運営(システム運用含む)は課題  
⇒授業実施者による授業運営の熟練・システム運用に対する慣れ・熟練が必要

## さいごに

モニター画面で知り合った履修生同士が、課外活動や本学で実際に対面したときの感動、そして授業の感想に「自分たちも信州大学に行ってみたかった」と書いた他大学への関心は、履修生同士をつなぎ、彼らの世界と視野を広げる遠隔授業の副次的な効果として期待できる  
=国際看護学の究極の目標



キャンパスを超え、人と人が「つながる」遠隔授業